

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No. 80

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

すべての教科を英語の教科書で教えよう

—英語上達の一方法—

上杉 進

大正5年(1916)、約百年前の中等教育男子進学率が20%に満たぬ頃の話である。東京外国語学校教授村井知至(1861-1944)は、大岡育造(元文部大臣)の「中学校からの外国語排除論」に対して「中学校における英語教育の拡張」と題して猛然と反論した(『教育時論』第1138号)。快哉! その背景は日清、日露の連勝でナショナリズム的風潮が現れ一等国であるという錯覚で日本語があればよしとする英語教育追放論となったのである。

村井は説く:「普通教育を主眼として、一般国民的知識を習得する中学校では外国語を必修とすべきである。今後は国威の伸張、文明の発達、交通の利便、国交の親密などの点で世界の中の日本でなければならない。英語教育が卒業後役に立たないというのは教授が不完全ゆえである。目的は国民の海外発展と世界的向上である。全ての教科を英語の教科書で教えることが英語習得の近道である」明解である。アメリカ教育のおかげか、悪い点は率直に認め、英語習得の近道を唱道する。この指導法は欧州で盛んに研究されている CLIL (Content and Language Integrated Learning) に類似している。村井の反論から百年、CLIL 研究のひろがりや深化を期待する次第である。

1) 世界の中の日本 現在 70 億の人々が経済格差、地球温暖化を初めとする地球規模の数々の難問に直面している。今や地球市民の一員として世界の安寧に寄与すべく協力・協働が必至である。しかも急を要する。文科省有識者会議は英語教育改革案を提起した。グローバル化に対応するためとして、①英語の学習時期を早める(小3から学習開始、小5から教科指導)、②大学入試の英語と入学後の英語教育の在り方を抜本的に改革する等である。(実用語としての位置づけであろう)

2) 早期英語教育は、それまで知りえなかったことを知る新しい選択肢を生徒に与え、英語耳を早く作ることを可能にする。

フォーラムに出席したときのことである。まずは自己紹介。“My name is Susumu Uesugi.” アカバナの chairperson, 微笑みながら “Nice to see you, Mr. ウィスキー.” 筆者「?」, 日本の友人爆笑。再度同じことの繰り返し。Mr. Whiskey! 今度は真に clear な発音。筆者は内心かんかん! Chairperson にはウエスギという acoustic image はない? なければ正確に音を捕えることができるはずはない。辞書を引いてみると語の初めの音を「ue」と発音する単語が見当たらない。納得である。

日本語は、我々が胎内にいる時に母を通して無意識に聞く音である。日本語耳の土台は自然に育っているのである。生まれ出て生の音を直に聴くと、音は確かになり、意味を持ち、正誤を繰り返し、確かな日本語となる。英語の場合は胎内からというわけにはいかないから、できるだけ早い時期に日本語にない英語の音を識別する耳を作ってやるのが肝要である。生徒が将来、豊かな言語活動を享受できるようにするためである。

(副支部長)

平成26年度第2回(通算71回)研究例会(高松研究例会)のご案内

前号でもお知らせした通り、本年度第2回(通算第71回)研究例会を、来る12月13日(土)、香川大学教育学部(香川県高松市)にて開催いたします。

今回の例会では、支部長の田村道美先生(香川大学名誉教授)、副支部長の松岡博信先生(安田女子大学)の研究発表が予定されています。会員の皆様にはぜひ高松の地にご参集いただきますよう、ご案内申し上げます。

研究例会のあとには、忘年懇親会を企画いたしております。こちらの方へも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時： 平成26年12月13日(土) 13:00 受付開始
会 場： 香川大学教育学部 第3会議室(教育学部2号館2階)
〒760-8522 香川県高松市幸町1-1 電話: 087832-1523 (竹中研究室)
共 催： 香川大学教育学部

プログラム：

開会行事(14:00-14:05) 支部長挨拶 田村道美(香川大学)

研究発表①(14:05-15:15)

「漱石と *The Lotus Library* (4) – *The Nabob* の書き込みを中心に –」

田村道美氏(香川大学名誉教授)

明治期後半に輸入された英語の廉価版叢書のひとつに <i>The Lotus Library</i> がある。漱石蔵書中に本叢書が11冊あり、内6冊の見返しや本文余白に書き込みがある。これまでに Alphonse Daudet の <i>Sapho</i> , Edmond de Goncourt の <i>La Faustin</i> , Guy de Maupassant の <i>A Woman's Soul</i> の3作品の書き込みについて解明してきた。本発表では A. Daudet の <i>The Nabob</i> を取り上げ、漱石の書き込みについて考察する。また、出版社や装幀等の異なる3種類の <i>The Lotus Library</i> が存在する理由についても究明してみたい。
--

(休憩 15:15~15:30)

研究発表②(15:30-16:40)

「中浜万次郎が果たした教育的役割 – 開成所から開成学校を中心にして –」

松岡博信氏(安田女子大学)

嘉永4年(1851年)、米国より帰国したジョン万次郎は、幕末から明治にかけての英学史に大きな足跡を残した。本場仕込みの通訳者としての活躍のみならず、教育者としての功績も大きいと思われる。特に、江戸幕府の開成所からその後の明治政府の開成学校において教授として勤務した頃が、彼の教育における活躍の中心的時期であったように思われる。本発表では、開成所および開成学校における教授陣および教授内容に触れ、彼が幕末から明治にかけての激動の時代に、幕府や明治政府が設立したこれらの学校でいかなる教育的役割を担い、また実践していったのかを探る。
--

閉会行事(16:40-17:00) 副支部長挨拶 竹中龍範(香川大学)

忘年懇親会(18:00-20:00) 高松市内の会場を予定(予算5,000円)

交通のご案内 (香川大学教育学部 HP <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/access/access.html> より)



キャンパス案内図

JR 高松駅より

- JR 高徳線 : 「高松駅」 → 「昭和町駅」 下車 徒歩 5 分
- タクシー : JR 高松駅 → 香川大学 約 10 分 約 700 円
- 徒歩 : 約 20 分

宿泊のご案内

12月13日(土)の宿泊をご希望のかたは、「ホテル川六エルスステージ」(高松市百間町1-2, TEL 087-821-5666)が便利です。繁華街、飲食店街にも近く、料金のほうは香川大学の法人契約料金が適用されて、シングルで5,600円とインターネット予約よりも割安です。「香川大学教育学部の竹中先生の紹介による」旨をお伝え頂き、各自で直接にお申し込みください。

高松例会のご出欠について

※例会および懇親会のご出欠をお知らせください。同封の参加申込用紙の内容について、12月1日(月)までに、メール、ファックス、郵送のいずれかでご回答くださいますよう、お願いいたします。

事務局連絡先 メールアドレス : eigaku@tom.edisc.jp
F A X 番号 : (0824) 74-1725
郵 送 先 : 〒727-0023 広島県 庄原市七塚町 562 県立広島大学 馬本研究室内
日本英学史学会 中国・四国支部事務局

※当日 12:00 より理事会を開催します(教育学部2号館2階 第3会議室準備室にて)。理事の皆様には、別途ご案内をお届けいたしますので、こちらのご出欠も合わせてお知らせください。

英学史情報ひろば

- ◇金田道和 (2014) 「<講演>「英語を英語で」について」『LRT 研究紀要』2 (英語教育を語る会) pp.11-16.
- ◇上杉 進 (2014) 「吉田松陰と外国語」『LRT 研究紀要』2 (英語教育を語る会) pp.60-64.
- ◇風呂 鞏 (2014) 「<講演>ハーンに学ぶ半世紀」『八雲』26号 (小泉八雲顕彰会), pp.23-39.
- ◇小泉 凡 (2014) 『怪談四代記 八雲のいたづら』講談社.
- ◇安部規子 (2014) 「修猷館の英語教育：明治時代の試験問題について(1)」『久留米工業高等専門学校紀要』30, (1), pp.1-10.
- ◇第171回「広島ラフカディオ・ハーンの会」ニュース (2014年11月)
- ◇浅田栄次没100周年記念行事記念シンポジウム「浅田栄次の伝えるもの」(2014年11月1日)
コーディネータ 保坂芳男
河口 昭「揺籃期の浅田栄次」
柳元宏史「旧約聖書学と浅田栄次」
高橋作太郎「東京外国語学校と浅田栄次」
五十嵐二郎「英語教育と浅田栄次」

・ご投稿に際しては、『英学史論叢』第17号、ニューズレターNo.79に掲載の「執筆要領」および「標準書式」に従ってください。

・研究論考・研究ノートを投稿予定の方は、事前に「投稿申込」をお願いします。2015年1月31日までに事務局へ、メールまたはファックスにてお申し込みください。

メール: eigaku@tom.edisc.jp

ファックス: 0824-74-1725

・原稿提出の締切は、**2015年2月20日**(消印有効)です。事務局まで郵送してください。

・研究論考・研究ノートは、正副計3部をお送りください。英学史随想、書評等は1部お送りください。

追悼記投稿のお願い

『英学史論叢』第18号に、本年5月にご逝去なさいました定宗一宏先生を偲ぶ「追悼記」を掲載いたします。多数のご寄稿をお待ちしております。

タイトル、および本文(全角38字×30行以内)を、ニューズレターNo.79に掲載の「『英学史論叢』標準書式」に沿ってB5判1ページにまとめ、事務局まで1部、お送りください。

追悼記締め切り: 2015年3月31日

中国・四国支部事務局より

>> 年会費納入のお礼とお願い

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費(一般3,000円、学生2,000円)をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしくお願ひいたします。

(口座番号) 01360-9-43877

(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

>> 第2回研究例会(高松例会)について

今年度第2回(通算71回)研究例会は、2014年12月13日(土)、香川大学教育学部(香川県高松市)を会場に開催されます。本ニューズレター2~3ページをご覧の上、出欠をご回答ください。

>> 『英学史論叢』第18号原稿募集

日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英学史論叢』第18号(2015年5月発行予定)の原稿を募集します。研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

広島英学史の周辺(46) 話題の朝のテレビ小説『赤毛のアン』の村岡花子に続き、竹鶴政孝の物語も「英学の気」を伝えてくれます。かつてこの欄に次のように書きました。▼竹原の造り酒屋に生まれた竹鶴は、大正時代にスコットランドでウイスキー製法を学び、後にニッカの創業者となります。忠海中学時代から英語が得意で、従兄との文通にも英語を使ったという竹鶴の学習歴や、英国での留学生生活を調べることもまた、広島英学史の一断面に迫る研究になるでしょうか。(「ニューズレター」No.37, 2004年1月)
▼Japanese whisky がスコッチと同じく e なしで綴る(バーボンに-key) こともまた、英学的蘊蓄話になりそうです。▼では皆様、高松でお会いしましょう。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.80

2014年11月20日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 田村道美)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74-1725 (直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.80